

## 平成 16 年度第 2 回大台ヶ原ニホンジカ保護管理検討会

### 議事概要

◆ 日 時 平成 17 年 3 月 25 日（金）9:30～11:30

◆ 場 所 奈良市 奈良県文化会館「第 1 会議室」

◆ 出席者 検討委員／6 名中 4 名出席

関係機関／奈良県農林部森林保全課、三重県環境森林部自然環境室、  
上北山村地域振興課

環境省／近畿地区自然保護事務所長、他

◆ 議 事

(1) 平成 16 年度調査結果について

- 1) 生息状況モニタリング調査
- 2) 植生調査
- 3) 個体数調査
- 4) 捕獲個体分析

(2) 平成 17 年度調査について

- 1) 個体数調整
- 2) モニタリング調査

◆ 議事概要 委員等からの主な意見

議事（1）

○委員等からの主な意見

（生息状況モニタリング調査結果）

- ・ 今後も三重・奈良両県から捕獲数や生息頭数等の情報を提供してもらい、周辺部を含む広域的な視点でシカ問題を考えていくべきである。
- ・ 生息密度については、捕獲により増加傾向は止まったとも考えられる。
- ・ 今年度に樹皮の割合が高いのは、台風により落枝が多く供給されたことも要因として考えられる。自然再生調査のシードトラップを用いた林冠からの食物供給量など、その年の特徴を把握しながら胃内容物の経年的なモニタリングを行い、樹皮の割合を見していく必要がある。なお、冬のデータが取れれば冬期は樹皮が多いかもしれない。

（植生状況調査）

- ・ ササの生育状況の「健全」、「不健全」といった判定の基準は、客観的に整理する必

要がある。

- ・ 調査の結果、これまでシカが食べていなかったミヤマシキミも食べ始めていることが明らかになった。他にもこれまで食べていなかった植物を今後シカが新たに食べ始めることも予想されるので、過去との比較が出来るようにすべきである。

(個体数調整)

- ・ 栄養状態や妊娠率については、大台ヶ原の環境条件をみるうえで、他地域の情報が比較のために必要。
- ・ 今年度の捕獲は 64 日間で 48 頭となった。大台ヶ原のシカの妊娠率がほぼ明らかになりつつあるので、データが蓄積した段階で、齢構成表を作成するべきである。

議事（2）

- 来年度の捕獲頭数は計画頭数に今年度捕獲できなかった 16 頭を加えた 60 頭とし、捕獲方法については、アルパインキャプチャーの設置場所の変更や新規にシカ捕獲柵の設置を行うことが了承された。なお、詳細については、ワーキンググループで検討を行うこととなった。

○ 委員等からの主な意見

- ・ G P S を用いたテレメトリー調査は、ハンディータイプによる追跡と直接観察の併用により、データを補完するべきである。

[文責：環境省近畿地区自然保護事務所]